

「地域コミュニティの連携強化とボランティア教育の促進に向けた取り組み」

にほんごクラブ「ゆう」 齊藤小郁

1. 目的

外国人入国の増加に伴い、ボランティア日本語教室の需要が高まっている。しかしながら、支援者が不足しており十分な対応ができない状況にある。この背景から、地域内のボランティア教室の連携を強化し、ボランティア活動を促進し、色々な年代の人たちへの日本語支援の充実を目指すための取り組みを行う必要性を感じた。

2. 実践内容

ボランティア連絡会への参加、ボランティアセンター、教育委員会学務課、教育委員会指導課、江戸川区SDGs推進部ともに生きる街推進課共生社会推進係を2回訪問、また4か所のボランティア日本語教室を1回訪問した。

3. 活動詳細

ボランティア連絡会では初級ボランティア養成講座（1月）後のボランティア体験会を提案した。

ボランティアセンターへはアドバンスボランティア養成講座（2月）の内容の提案をした。（講座終了後アンケート調査予定）

ボランティア教室を訪問し学習状況の観察と支援者さんの意見を聞いた。

教育委員会学務課へは、平井小松川地域での小学校入学前日本語教室の実施を要請した。

教育委員会指導課へは、子どもの日本語支援が不十分であること、支援者同士が会える機会が必要であることを伝えた。

共生社会推進係へは地域日本語教室が抱えている問題や行政との連携の必要性を訴えた。

4. 成果・効果

地域コミュニティの連携強化：ボランティア教室や関連部署などの地域組織との対話を通じて、地域ボランティア教室の役割の再確認を促すことができた。

ボランティア教育の促進：アドバンス養成講座内容の提案によりボランティアの教育スキルの向上のための取り組みが行われる。

子どもの日本語支援の充実：来年度作られる国際協力協会（まだ名称未定）において子供の日本語支援に対する行動がとれることになった。

5. 地域日本語教育コーディネーターとして大切にしたい視点

長く活動されている人達の意見を適切に理解し、彼らの関心やスキルにあった活動を提案すること。

行政の方々に現状を知ってもらうこと。

持続可能な活動のために地域内での教育支援体制の構築に各部署の連携を促すこと。

6. 難しいと感じたこと

同じ問題を抱えていても問題解決への話し合いに導くことが難しかった。

関係機関やボランティアの間で円滑なコミュニケーションを促進することができなかった。

現場での実践を通じて問題点を把握し、改善策を提案しても実行に移せなかった。

地域の行政が何をしたいのかを、まず知る。そしてどうか関わっていくかを考えて行動していこうと思う。そのために各地域で行われている取り組みを知りたい。

情報共有、提案、コミュニケーション調整、成果の評価を大切に、地域内の日本語教育支援を行っていききたい。